

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	複式学級解消事業	会計	一般会計	事業No.	674	施策順No.	22-007
		事業種別	政策・重点	予算科目	10-2-1-10-7		
政策	2 地育力によるこころ豊かな人づくり			課等名	学校教育課		
施策	22 義務教育の充実			事業期間	開始	17	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	複式となる学級						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
	学級数			3	6	4	4	
意図	学習に関して各学年に時間を分配せざるを得ないことから、十分にきめ細かい手が入りにくいこと。また、人間関係に関しては、人間関係での葛藤を経験する機会に恵まれないことや適度な競争意識を持たせることすらできないことから、複式学級を解消する。							
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	複式学級を解消する学級数	3	3	5	1	1	1	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	上村小学校へ講師を1名配置し目標を達成							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	1 国基準では16人未満で複式学級となるため県単独で9人以上の場合に複式解消措置を実施 2 9人未満の場合は市町村で措置しない限り複式学級 (1)小学校学習指導要綱(文部科学省)による各教科の学年ごとの目標及び内容に基づく学級編成に考慮し、低学年(1・2年)、中学年(3・4年)、高学年(5・6年)を基本に置きその解消を図る (2)5名の教員確保により複式を解消し学年単独の授業が実施可能となるため、23年度までを目途に市単独費用で対応する		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 市単独での教員配置 (1)小学校は2・3年、4・5年の複式学級解消を基本に複式学級の解消を実施 (2)上村小へ1人を配置	配置数	1人
23年度実施計画	1 市単独での教員配置 (1)小学校は2・3年、4・5年の複式学級解消を基本に複式学級の解消を実施 (2)上村小へ1人を配置	配置数	1人

3 事業コスト

事業費	特定財源	国庫支出金	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
		県支出金				
		起債				
		その他				
		一般財源	2,526	2,247	2,235	
		計(A)	2,526	2,247	2,235	
		正規職員所要時間				
		臨時職員等所要時間				
		人件費計(B)		0		
		トータルコスト A+B		2,247		

4 事業に対する市民や議会の意見

保護者、地域より複式解消の要望多数 上村地区市政懇談会などにおいて上村中学校の複式解消を求める声が非常に強い
---

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	複式学級を解消することにより、学年に応じた教育を受けることができ、義務教育が充実し、児童生徒の生きる力が付く。	施策の成果指標又はムトス指標	基礎学力の水準(小学校) 基礎学力の水準(中学校)
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	複式学級の解消は、学年に応じた教育を受けることが可能となることから義務教育の充実に繋がっている。		
	後期に向けた課題	上村小学校においては全学年が複式学級となるため、国語算数等複式では十分教育効果が上がらない教科について解消を行う。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	児童になるべく均等な学習機会を与えるための、市単独での教員配置に取り組んでいる。		
	後期に向けた課題	これからも継続して複式学級解消に努める。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	臨時講師の配置による人件費の削減		
	後期に向けた課題	臨時講師の配置による人件費の削減		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	県基準では9人以上が複式学級となるが、9人未満の場合は市町村での措置となり全学年で複式となる上村小学校においては解消のため1名を配置し教育の充実に努めている。		
	後期に向けた課題	継続した配置が望まれている。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしてみましたか、又は、配慮してみましたか	4年間の振り返り			
	後期に向けた課題			
全体を通じて	4年間の振り返り	小学校学習指導要綱による各学科の学年毎の目標及び内容に基づく学級編成に考慮し低学年、中学年、高学年を基本に置いてその解消を図ることとしている。		
	後期に向けた課題	5名の教員が確保できれば学年単独授業が可能である。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------